

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473300836
法人名	株式会社 ウィズネット
事業所名	グループホーム みんなの家・横浜三保
訪問調査日	平成21年3月26日
評価確定日	平成21年5月1日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473300836
法人名	株式会社 ウィズネット
事業所名	グループホーム みんなの家・横浜三保
所在地	〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町226-3 (電話) 045-924-2861

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	〒220-0074 神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成21年3月26日	評価確定日	5月1日

## 【情報提供票より】(21年3月6日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	25 人	常勤	7 人, 非常勤 18 人, 常勤換算 13.1人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	270 円	昼食	490 円
	夕食	490 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(3月6日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	港北メディカルクリニック、旭中央総合病院、甞生病院、中川歯科診療所
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所はJR横浜線中山駅からバスで8分の、緑と自然に囲まれた閑静な地にある。</li> <li>・「笑顔で仲良く暮らそう みんなの家」を理念にしており、地域住民とともに楽しく暮らせる事業所を目指している。自治会に加入し、近隣の住民に事業所の行事への参加を呼びかけたり、地域のイベントに利用者が積極的に参加して、地域と密着した生活を目指している。</li> <li>・24時間の医療連携体制があり、医師、看護師、介護職員の連携のもとで介護支援が行われており、利用者は安心して生活をしている。</li> <li>・職員は、利用者が役割を持って生活できたか、好きなことが見つかったか、健康に過ごせたかなどを検討し、日常生活を支援している。</li> </ul>
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着型理念の検討については、管理者・職員は、利用者が事業所内だけでなく地域住民とともに笑顔で仲良く暮らすことを事業所の理念と考えており、地域密着型サービスの役割を意識し、実現に向けて努力している。</li> <li>・災害時の備えについては、飲料水の備蓄を開始している。</li> </ul>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議で管理者が評価の意義を説明した。全職員が自己評価票に記入し、管理者が職員と意見交換をしてまとめた。</li> <li>・前回評価結果は玄関に掲示し、また、運営推進会議で報告している。</li> </ul>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議は、自治会副会長、地域包括支援センター職員、家族代表、事業所関係者をメンバーとして、2か月毎に行っている。</li> <li>・事業所からは運営やサービスの実施状況を説明し、意見交換を行っている。出席家族から、利用者が地域活動に参加して喜んでおり、家族にとって嬉しいなどの意見があった。</li> </ul>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の意見や希望は家族が来訪したときや電話連絡時に聴取し、申し送りノート、個人記録に記録して職員間で情報を共有している。</li> <li>・今までに苦情発生はない。ご意見箱を設けてあるが利用例はない。</li> </ul>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に加入している。近隣の住民に事業所の行事(七夕祭り、夏祭りなど)への参加を呼びかけている。事業所に子ども神輿に寄ってもらったり、利用者が子どもフェスティバル、近隣の学校の祭りなど、地域のイベントに積極的に参加している。</li> <li>・フラダンス、大正琴、ギター、折り紙などのボランティアを受入れ、利用者に喜ばれている。</li> </ul>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「笑顔で仲良く暮らそう みんなの家」を理念にしており、地域住民とともに楽しく暮らすことのできる事業所を目指している。 ・理念を玄関と各フロアに掲示して、日々の介護支援での具現化に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・毎月行う職員会議や日々の申し送りでは、理念に沿ったサービスになっているかを常に話し合っている。散歩のときに会う近隣の方に利用者や職員が挨拶するなど、地域との関係を大切にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に加入し、近隣の方に事業所の行事(七夕祭り、夏祭りなど)への参加を呼びかけ、利用者も緑区区民祭りや子どもフェスティバルなどの行事に参加して交流を深めている。 ・事業所にフラダンス、大正琴、ギター、折り紙などの地元ボランティアを出入れて楽しんでいる。 ・昨年は事業所に子ども神輿に寄ってもらい、利用者に変え喜ばれた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・職員会議で管理者が評価の意義を説明した。全職員が自己評価票に記入し、管理者が職員と意見交換をしてまとめた。 ・前年度の評価結果を玄関に掲示し、また、運営推進会議で報告している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は、自治会副会長、地域包括支援センター職員、家族代表、事業所関係者をメンバーとして、2か月毎に行っている。 ・事業所からは運営やサービスの実施状況を説明し、意見交換を行っている。席上、家族からは母親(利用者)が地域活動に参加していることについての感謝の言葉があった。		

グループホーム みんなの家・横浜三保 様

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・緑区福祉課、保護課と行政手続きや相談などを中心に連絡を密にしている。また、これら日常の連携を通して行政情報を入手し、サービス向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・毎月「一言通信」を発行し、利用者の写真を入れて事業所の行事を紹介しており、家族が来訪したときに手渡したり、郵送をしている。預かり金についてはレシートと出納帳のコピーを同封し報告している。 ・利用者の健康状態などに変化があれば、家族にその状況と行っている対応を電話連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の意見や希望は家族が来訪したときや電話連絡時に聴取し、申し送りノート、個人記録に記載して職員間で情報を共有している。 ・今まで苦情は発生していない。ご意見箱も設けてあるが利用例はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・離職者は少なく安定している。ただし、職員の育成を目的とした法人内の異動はある。 ・管理者は、利用者や職員、職員間で自由にもものが言える信頼関係を作る努力をしており、この結果、職員の定着率は高く、また、職員の法人内異動があっても利用者への影響は殆どない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内の研修は、採用時研修および入社後の職階別研修のシステムがある。 ・職員は法人内部研修に積極的に参加し、外部研修では、防火安全研修会に参加している。 ・内部研修、外部研修での受講内容はレポートを提出し、職員会議で内容を報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・神奈川県および横浜市のグループホーム連絡会に加入して、運営上の様々な情報収集に努めている。 ・フロア長は法人内のグループホームと交換研修を行なって、他職場の状況を学び職員を指導している。	○	・現在、同一法人グループホーム間での相互交流研修を行っていますが、県・市のグループホーム連絡会に積極的に参加して法人外の同業者と交流し、勉強会や相互訪問などを通じて視野を広げ、サービスの向上につなげることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・管理者が利用者と家族に入所前に面談し、アセスメント情報を把握し、入所後の介護支援に活かしている。利用者と家族には事前見学を勧め、事業所運営や他の利用者の様子を知って安心できるようにしている。 ・入所後は職員が利用者頻りに声かけて徐々に馴染んでもらい、また、家族の安心のためにも連絡を密にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は利用者の意向を尊重しながら、歌・ゲームなどのレクリエーションや、掃除、散歩、食事の準備なども一緒に行い、楽しみや喜びを共にしている。 ・利用者から食事のマナーを教えられたり、夜勤のときに「少し休んだら？」などのねぎらいの言葉をもらうことがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・利用者との日常生活を通して、また、過去の生活歴などから思いや意向の把握に努めている。 ・意思疎通が困難な利用者の場合は、表情や仕草を見て、思いや希望を把握している。また、家族から利用者本人が何を望むかを教えてもらうこともある。把握した内容は申し送りノートや個人記録に記録して職員間で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ケアカンファレンスを毎月行っている。申し送りノート、個人記録をもとに、利用者の状態を確認し、職員が3～4名参加して介護計画を検討している。 ・介護計画には、事前に聞いた利用者本人・家族の意見や、医師の意見を反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・3か月、6か月毎にモニタリング評価をし介護計画を見直している。見直した介護計画は家族に連絡し了解を得ている。 ・利用者の状態に変化がある場合は、その都度家族や医師と連携をとりながら介護計画に修正を加えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族が利用者の通院付添いができないときは、職員が柔軟に付添支援をしている。 ・事業所の専門的機能を活かして、家族の介護保険に関する相談などに応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関として、港北メディカルクリニック(月2回往診)、中川歯科診療所(月2回往診)、旭中央総合病院、甞生病院がある。その他、利用者は高齢であり、体調変化に備えて24時間医療連携体制もとっている。 ・訪問看護師(月2回)、マッサージ(月2回)の訪問を受けている。 ・利用者は年1回健康診断を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・「重度化した場合の対応に係る指針」があり、医師との連携体制、看取りに関する考え方、本人および家族への意思確認方法などが定められている。 ・重度化した場合は、医師・家族と連携し、上記指針に基づき支援を行うこととしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・オムツ交換やトイレ誘導時は、そっと声を掛けたり、排泄介助時は必ず戸を閉めるなど、利用者のプライドを傷つけないように配慮をしている。 ・個人情報の保護に関しては、個人情報は絶対に口にしないことを管理者が職員に徹底しており、また、個人情報が記載された文書は事務室に施錠保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・アセスメントや日々のコミュニケーションから、一人ひとりの好みやどのように過ごしたいかを把握し、笑顔のある生活が送れるように、支援努力をしている。 ・利用者一人ひとりについて「役割を持って生活できたか」、「好きなことが見つかったか」、「健康に過ごせたか」などの目標の達成状況を話し合い、利用者個々の状態に合わせた支援方法の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者は味噌汁作りや料理の盛り付け、後片付けなど自分の出来ることは協力している。 ・食事では職員は利用者と同じテーブルに座り、楽しい話題を提供し、雰囲気明るく盛り上げている。月一回は利用者の希望を聞き、おやつを手作りしている。 ・行事の折にはバイキングを提供し、利用者とは家族から好評を得ている。少人数のグループに別れ外食にも出かけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は2階は一般浴で1階はリフト浴になっており、車椅子の利用者はリフト浴を使用している。 ・平均週2～3回、午前中の中の入浴を原則にしているが、できる限り本人の希望に合わせて配慮し、入浴嫌いの利用者にはタイミングを見て上手に誘導している。菖蒲湯やゆず湯で季節感を出すなど入浴を楽しめるように工夫をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・植木や花壇の手入れ、洗濯物干しやたたみ、お菓子作りなど利用者の得意の分野で、役割を持って張り合いのある日々を過ごせるように支援している。 ・フラワーアレンジメントや書道、遊びながらの機能訓練など、複数のレクリエーションが用意され、利用者は自分の好みに応じて参加し楽しんでいる。作品展など発表の機会も設けている。 ・ボランティアによる歌やフラダンスの「お楽しみ会」も年数回催されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は毎日散歩に出かけ、車椅子の利用者も一緒に参加している。ときには野外でお茶や昼食を楽しんでいる。 ・買い物や外食を希望する利用者には、職員がついて2～3人のグループで出かけている。近隣の学校の学校祭や地域のイベントにも参加している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・安全を考慮して玄関のみ施錠しているが、事業所内ではできる限り鍵を掛けないケアの実践に取り組んでいる。1階と2階のユニット間は施錠していないため、利用者は自由に往き来して気分転換を図っている。職員は利用者の動きを見守り、上下の階で密接な連携をとっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回の防災訓練に利用者も参加して実施している。20年度は消防署員の指導で職員はAEDの使い方の研修を受けた。今後は地域住民の防災協力を得られるように働きかけていきたいと考えている。 ・非常用備蓄として飲料水を備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水分摂取量は概ね1日1,300ccとしており、量的に満たさない利用者にはスープ、ジュースなどで変化をつけて摂取するように支援している。</li> <li>本社の管理栄養士が栄養バランスやカロリー摂取量(1,500Kcal)を計算をして献立を作成している。調理では利用者の状態に応じて刻み食やお粥づくりなど細かい配慮をしている。食事量、水分量はチェック表に記入している。</li> </ul>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リビングルーム、廊下は広く作られていて、玄関入り口に季節の草花や手製の小鳥の餌台が置かれている。玄関ホール内には、手作りの飾り物や利用者の作品が置かれ家庭的なあたたかい雰囲気になっている。</li> <li>広く明るいリビングは換気や室温に配慮し、桜の木の模型を飾るなどして季節感を出している。また、事業所内の数箇所にベンチを置き「居心地の良い、一人でほっとできる場所」も作っている。</li> </ul>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>居室の入り口に利用者と担当職員の笑顔の写真を貼り、自分の部屋を間違えないように工夫している。</li> <li>家庭で使い慣れた箆笥や仏壇など馴染みの家具を持ち込んだり、手作りの作品を飾って、居心地の良い部屋を作っている。</li> <li>箆笥の引き出しごとに品名シールを貼り、整理整頓とあわせて下着や衣類の格納場所を分かりやすくしている。</li> </ul>		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム みんなの家・横浜三保
(ユニット名)	さわやか(1F)
所在地 (県・市町村名)	横浜市緑区三保町226-3
記入者名 (管理者)	土倉末子
記入日	平成 21 年 3 月 14 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげています	散歩や地域行事に出かけ、地域の方がボランティア、慰問に来訪していただいたり、地域の方々とのふれあいの場を多くすると共に楽しく暮らせるホームを目指しています。理念「笑顔」改め、利用者様の声により「笑顔で仲良く暮らそうみんなの家」となりました	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいます	各フロアに理念の掲示。余裕のある笑顔での接遇ができるように、報告、連絡、相談を職員間で共有し、チームワークをもって業務に取り組み利用者様と共に笑顔になれるように、ホーム会議、申し送り等で理念の話題を重視し見直しを図り、サービス提供場面において声かけ時、生活記録に反映しています	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいます	運営推進会議、家族会において取り組み実態の説明、一言通信で伝えています	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めています	日々の散歩時には、隣近所様への挨拶は、入居者様、職員と共に自然と「笑顔」で行っています。七夕祭り、夏祭り、敬老祝賀会、運動会等行事に参加して頂けるようチラシを配布したり、回覧板を届けたり、草木の伐採をお願いしたり、ご近所付き合いを深めています	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めています	自治会に加入継続し回覧板をまわしています。子ども神輿の来訪において、自治会、子ども会から情報をいただき、笑顔で迎え涙流されて喜ばれました。子ども区民祭り、子どもフェスティバルなど地域の行事に積極的に参加しています	

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいます</p>	<p>民生委員、地域方々と認知症を知る会をみんなの家・横浜三保2と開催しました。行事会議等で話し合い、ホームイベントへの参加呼びかけにチラシを地域に配布して、ホームの事を理解して頂けるように遊びに来て頂いています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいます</p>	<p>職員会議を設け、評価の意義を理解し評価結果をしっかりと受け止め改善に対して意見交換をしながら実施に取り組んでいます。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしています</p>	<p>活動報告、今後の活動予定、事故報告等を行い、意見交換を行ってサービスの向上に反映しています</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいます</p>	<p>福祉課へ認定更新手続き等の相談、保護課との連絡を蜜に行っています。グループホーム連絡会に加入し都合のつく時に参加して行きます。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援しています</p>	<p>社内の研修会で学び、折に触れご家族様にお伝えしています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めています</p>	<p>虐待の事例等を回覧、掲示して研修及び職員ミーティングで常時話し合い、周知徹底しています</p>		

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っています	契約時、契約解除時共に、納得できるように十分に説明を行い、不安を取り除く拝領をしています	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させています	利用者への傾聴を大切にし、自身の思いや意見を上手に表現ができない方には言動から探り出し、また、利用者の訴えをそのままにすることなくミーティング等で具体的に話し合い、職員間で共有し反映しています	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしています	毎月の一言通信で写真入のお知らせと来訪時、必ず声かけし近況状況を行っています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させています	行事等の後に家族会を設け、ご家族同士の顔馴染みができ、意見交換の出し易い雰囲気作りを行っています。玄関に、設置している意見箱や本社へのメール等で意見を言える場を提供しています	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させています	ホーム会議、各種委員会会議、引継ぎ等で意見交換を行い、申し送り等で伝達し質の向上に努めている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めています	常に利用者が支援を受けられる様に、柔軟なローテーションができるように職員と話し合いシフト調整を行っています。開所以来の勤続者から2年以上の勤続者が多く、利用者にとって馴染みのある関係となっています	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしています	馴染みの職員が継続的に支える体制で、統一した援助ができるように引継ぎ時間を十分に取、スムーズに移行ができています	

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めています</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしています</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいます</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めています</p>		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていますこと等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしています</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていますこと、不安なこと、求めていますこと等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしています</p>		

みんなの家横浜三保(さわやか 1F)

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としています支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています	入居担当者との連携、相談にて速やかに対策を考えて報告をしています		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫しています	一日も早く慣れて頂くようにご家族と相談し、普段使い慣れた物など持ち込んで頂き、今後グループホームで生活して行く事を認識して頂けるように、笑顔で接し会話対応を大切にしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いています	食事を共にしたり、お茶を一緒に飲んで利用者の生活に職員も入れるようにしています。利用者が何を求めているのかを言動などあらゆる面から探り傾聴、共感し、安心ができるようにスキンシップをとりながら、得意分野で力を発揮して頂けるようにしています		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いています	面会時、電話などでご家族と連絡を取り合い、情報交換を密に行っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援しています	面会時はご本人の状況をお話し、自室にてお茶を飲みながら会談していただいています。行事のお知らせ、参加を募っています。又、疎遠になっていきます家族には、電話連絡、一言通信で毎月行事予定を記載し、いつでも来訪出来る様に呼びかけています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めています	ご家族、ご本人から情報収集して知人、友人が訪ねて来られる様な環境作りを行っています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めています	利用者間の関係を把握し、配席の工夫、適時職員が間に入るなどホーム全体での利用者の交流を図り、個性を生かした役割をもっていただいています		

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしています	住所地遠く該当無いです。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。困難な場合は、本人本位に検討しています	居室担当者を中心に定期的なカンファレンスや会議を通し利用者の言葉、行動などから汲み取り意向を聞き記録に残して、利用者の生活歴、ご家族からの情報を共有しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めています	入居前にご自宅を訪ね、本人の生活歴やご家族からの情報の把握して共有しています		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めています	バイタルチェック、食事量、排泄チェックの健康管理は毎日。一日の時間とそのときの様子を生活記録に落とし、一人ひとりの生活の把握を行っている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成しています	利用者主体の暮らしができるようにアセスメント、モニタリング、カンファレンスを開催し、職員間の意見を反映し具体的な介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成しています	3ヶ月及び6ヶ月ごとにモニタリングとカンファレンスを行い見直しチェックをしている		

みんなの家横浜三保(さわやか 1F)

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています	生活記録や個人の申し送りノートに変化のあった時など詳しく記録し、職員間で情報を共有している。又、協力機関、ご家族からの情報をケアプランに反映させ実践している		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしています	月2回の訪問診療、週1回の歯科衛生士の口腔ケア、歯科医月2回、月2回の訪問看護師、月2回のシニアセラピー、24時間体制の医療との連携を行っている		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援しています	消防署と連携し避難訓練を行ったり、ボランティアによる、合唱、尺八合奏、フラダンス、大正琴など楽しんでいたり、小学校で行われる行事に参加しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしています	本人の意向や必要性に応じて他事業者やご家族も含め相談し利用者本位の支援が出来る様に努めている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働しています	運営推進会議時に地域包括支援センターの方から助言を頂いています		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援しています	訪問診療医による定期的な馴染みのドクターの受診となり医療連携を保っている。通院介助においてご家族と連携をとり情報を共有している		



みんなの家横浜三保(さわやか 1F)

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援しています</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしています</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めています。あるいは、そうした場合に備えて連携しています</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有しています</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいます。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っています</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めています</p>		

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人のプライドを傷つけないように呼び名に気をつけ、利用者の近くで言葉をかけるなど個人の気持ちを大切にしています。居室入り口ののれん、排泄時など戸を閉めるなどプライバシーに配慮しています。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしています</p>	<p>レクリエーションへの参加、訪問パン屋での買い物など希望を確認している</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援しています</p>	<p>利用者の健康状態や希望に合わせて、入浴、散歩の有無を聞き、「何かすること無いかな」と話して来られたり、昔話など聞いて、夜間眠れない方と一緒にテレビを見るなど個別に対応し、利用者の気持ちを大切にゆったりとした自由に制限なく、職員も一緒に見守りながら生活しています</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めています</p>	<p>「髪が伸びただけど散髪屋さんを呼んでもらえるかな」速やかに訪問理容にて好みのカット、朝の整容時に洗顔の声かけとご自分でできない方はタオルで拭いたり、髭剃りもご自分で剃った後の剃り残しがあった時は職員が剃ったり、着衣の交換もできる限りご自分で選択するようにしている</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしています</p>	<p>職員が一方的に行わず、お味噌汁作り、盛り付け、食器の後片づけおやつ準備の利用者と共に行い一緒に召し上がっている また、外食したり食の楽しみを共有している</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援しています</p>	<p>月2回の手作りおやつには何が食べたいかを聞いて、準備から出来上がりまで楽しんで行っています。また、入浴後などに好きなお酒をノンアルコールではありますが飲んで頂いたり、好きな時間に好きな食べ物を召し上がり、自動販売機で飲みたくなったら好きなものを選んで購入しています。外食時にも好きなものを選んでいただいています</p>	

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援しています	排泄毎に記録し、一人ひとりのパターンを把握して早めに耳元で声かけ、誘導を行い自力でのトイレ排泄の支援を行っている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援しています	一人平均2日おき位で、入りたくないときは無理強いをしない様に声をかけて入浴しています。また、季節に合わせたゆず湯、菖蒲湯を用意し入浴に対し楽しみが持てるように工夫しています。入浴のタイミングは可能な限り希望に添えるようシフトを工夫している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援しています	一人ひとりの生活習慣に合わせて、日中の休息は自由に取っていただき、夜間は眠れるように室温、照明、音など環境を整えています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしています	一人ひとりにあった役割を持って生きがい、楽しみを持って頂けるように、食に関する職人の方には、盛り付け、かたづけ、おやつ作りの手順時から出来上がりまで楽しんで行っている。又、洗濯物を干す、たたむ、ガーデニング、花の水遣り、色塗り、書道、生花などの趣味を生かした環境を提供しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援しています	個々の能力に合わせてご家族とも相談し、お金は自己管理で所持しており買い物に出かけた折には、所持金から払って金銭管理している。また、所持が不可能な方でも、訪問パン屋さんが来られた折には、お金を持って頂いて支払う、つり銭を頂くなどの支援をしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援しています	希望を募って散歩、草木を見る、戸外でお茶を飲んだり、屋外の掃除を歩行困難な方も一緒に行っている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援しています	どの様な所へ行ってみたいか利用者に聞いて、ご家族に募り、バスツアーを計画しご家族様も一緒に出かけている		

みんなの家横浜三保(さわやか 1F)

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしています	年賀状を書いたり、ご本人宛に届いた物はお渡しし、お手紙のお礼状を書いて出したり、電話がかかってきたときは取り次いで、かけたいときにはかけていただいています		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫しています	ゆっくり過ごせるように、ご本人の希望するお部屋、フロアへご案内いしてお茶をお出し、時には近況を話したり写真を見て頂いたりしています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます	「身体拘束の無いケア」を掲示し、職員全体に拘束に対する理解を高めるため、会議で話し合う機会を作りケアに当たるように努めている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいます	防犯上、安全策理上の理由で施錠している扉もあるが、可能な限り鍵をかけず入居者の生活空間を広げている。施錠している扉も本人の訴えにより開錠している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮しています	職員一人は常時フロアで見守りができることを基本にしており、その場を離れる時には必ず声のかけあいをするように努め、夜間は巡視をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしています	生活習慣上必要な物品は可能な限り自己管理していただいている注意が必要な方の習性の把握、一緒に行動し助言することでの危険回避、定期的な収納庫のチェックをしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいます	会議、申し送り、ヒヤリハット、事故報告書などの情報を職員間で共有し事故防止に努めている。書類物は綴じていつでも見れるようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っています	事務所内の貼り紙や急変事故発生マニュアルにて周知徹底し急変時に備えて医療機関からの対応策の助言等を職員間で共有し、救急法の研修を行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけています	防災訓練を年2回、入居者を交えて実施しています。また、厨房以外の室内は火気厳禁とし、定時の見守り確認を徹底し自主点検表で防火管理を行っている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っています	入居者の身体状況の変化に応じてご家族様に面会時、電話連絡するほか、「一言通信」を毎月発行し日常状況を報告しています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けています	毎日2回のバイタルチェックや定期往診にて健康管理し、体調の変化が見られたときは、往診医に連絡し職員間で共有し、必要に応じてご家族へも連絡しています		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用しています薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています	薬の内容が変更になる都度、申し送りノートに変更内容を記載し、周知徹底を図っています。薬の作用・副作用については薬剤師に指導を受けています。社内で研修を受けた際は職員間で情報を共有している。必要に応じて往診医と連携をとり、ご家族へ伝えている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいます	水分補給や、健康飲料(牛乳、豆乳、ヨーグルト、乳酸菌飲料)などの摂取、腹部マッサージや適度な運動を心がけています。必要に応じて主治医と相談の上、下剤を服用していただくこともしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしています	歯科医院による口腔管理が定期的に行っています。このほか、毎食後に歯磨きを呼びかけ、介護が必要な方に対しては職員による介助を行っています。		

みんなの家横浜三保(さわやか 1F)

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしています	食事量・水分量についてはバイタル・服薬チェック表に欄を設け、日常の喫食状態を把握すると共に、食事を共にすることで食事の形状がその入居者に合っているか確認し対応しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行しています(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがい、食事前手指の消毒、冬場の室内乾燥防止の為に加湿、必要に応じてマスク、手袋の着用を敢行し、感染予防に努めています。さまざまな感染症については、その内容を申し送りノートへの記載や、職員会議での議事として職員への周知徹底に努め、流行の感染症は研修を行い予防の知識を深めている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めています	中国産原材料については納入業者より使用する原材料ごとにその規格証明書の提供を義務付けるなど使用する食材の安全性確保に万全を期している。衛生管理マニュアルを作成している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしています	玄関が奥まっていますので、道路に面した壁面に「みんなの家・横浜三保」のプレートや手作りの餌台、花壇などを設け、明るい雰囲気になるよう心がけています		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしています	のれん、レースのハーフ丈のカーテンなどによる家庭的な雰囲気作り。利用者の作品、四季折々の草花の飾りつけや行事の手作り写真集を壁に設置するなどして、暖かな空間を演出しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています	エレベーター前ホールの椅子やテーブル、テレビ前の藤の椅子やソファの位置の工夫、キッチンにテーブルと椅子を設け、くつろげる環境作りを提供している		

みんなの家横浜三保(さわやか 1F)

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています	クローゼット、たんす、ベッドは備え付けられていますが、仏壇、たんす、テレビ、鏡台、テーブル、椅子など馴染みのある物を自由に持ち込んでいただいて居心地のいい部屋としています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っています	入居者に四季折々を感じていただくため、日に一度居室の窓を開けています。それ以外は、動きの少ない入居者に合わせた気温調節を心がけています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫しています	トイレ・浴室等は必要なところに手すりを配置、居間・食堂はテーブルの間隔を広く取り、車椅子やシルバーカーでの移動に支障が無いよう事故防止に努めています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫しています	モニタリングやカンファレンス、生活記録を通して、一人ひとりの力を活かせる努力を職員間で探して自立に繋げている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしています	施設の脇を通る小道を有効活用し、毎日散歩を実施しています。 花壇の草花や小鳥の餌台、野菜の栽培、天気の良い日はテーブルを出して外気浴をかねたティータイムなど楽しんでいます。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念「笑顔」を改めご利用者からの声より「笑顔で仲良く暮らそうみんなの家」となりました。ホーム周辺は緑が多く四季の移り変わり、ご近所の方との会話を楽しみに毎日散歩へ出かけ顔馴染みとなって「こんにちは～」「おばあちゃんいつも元気ね」「何を作っているのですか」などと声をかけたり、かけられたり、今では自然に地域に溶け込んでいます。地域行事に出かけること多く、外出先から帰ってくると「ただいま～」とホッと安心され、やっぱり「ここが一番」とご利用者からの声。職員共々に明るく、元気よく笑いの絶えない生き生きとしたホームです。毎月の行事多く、その中でも重きを置いている「敬老会の日の集い」「元旦の日の集い」です。これらの行事で使用する紅白幕リニューアルし約400枚を利用者の手で半年かけてひと針ひと針縫っていただきました。今ではホームの宝物です。玄関、フロアの飾りつけは四季折々に合わせ、折り紙、色塗り、貼り絵、写真、居室入り口飾りなどで雰囲気作り。自分らしさを強調するためのれんを下げて見ました。手作りおやつでは準備から一人一人が役割を持って最後まで行われ充実感を感じていただいています。玄関前、玄関ホール、2階エレベーターホールにはテーブル、いす、観葉植物を設置し空間作りを行い、自由に利用ができるように工夫しています。利用者にそれぞれ役割を持っていただき掃除、片付け、洗濯物干し&たたみ、ヤクルト配達、花の水遣り、野鳥の餌やりなど生きがいを持って生活していただいています。近くに買い物する所もないため、移動パン屋さんに来ていただいたり、自動販売機を設置しました。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム みんなの家・横浜三保
(ユニット名)	なごやか(2F)
所在地 (県・市町村名)	横浜市緑区三保町226-3
記入者名 (管理者)	土倉末子
記入日	平成 21 年 3 月 14 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげています	散歩や地域行事に出かけ、地域の方がボランティア、慰問に来訪していただいたり、地域の方々とのふれあいの場を多くすると共に楽しく暮らせるホームを目指しています。理念「笑顔」改め、利用者様の声により「笑顔で仲良く暮らそうみんなの家」となりました	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいます	各フロアに理念の掲示。余裕のある笑顔での接遇ができるように、報告、連絡、相談を職員間で共有し、チームワークをもって業務に取り組み利用者様と共に笑顔になれるように、ホーム会議、申し送り等で理念の話題を重視し見直しを図り、サービス提供場面において声かけ時、生活記録に反映しています	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいます	運営推進会議、家族会において取り組み実態の説明、一言通信で伝えています	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めています	日々の散歩時には、隣近所様への挨拶は、入居者様、職員と共に自然と「笑顔」で行っています。七夕祭り、夏祭り、敬老祝賀会、運動会等行事に参加して頂けるようチラシを配布したり、回覧板を届けたり、草木の伐採をお願いしたり、ご近所付き合いを深めています	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めています	自治会に加入継続し回覧板をまわしています。子ども神輿の来訪において、自治会、子ども会から情報をいただき、笑顔で迎え涙流されて喜ばれました。子ども区民祭り、子どもフェスティバルなど地域の行事に積極的に参加しています	

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいます</p>	<p>民生委員、地域方々と認知症を知る会をみんなの家・横浜三保2と開催しました。行事会議等で話し合い、ホームイベントへの参加呼びかけにチラシを地域に配布して、ホームの事を理解して頂けるように遊びに来て頂いています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいます</p>	<p>職員会議を設け、評価の意義を理解し評価結果をしっかりと受け止め改善に対して意見交換をしながら実施に取り組んでいます。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしています</p>	<p>活動報告、今後の活動予定、事故報告等を行い、意見交換を行ってサービスの向上に反映しています</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいます</p>	<p>福祉課へ認定更新手続き等の相談、保護課との連絡を蜜に行っています。グループホーム連絡会に加入し都合のつく時に参加して行きます。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援しています</p>	<p>社内の研修会で学び、折に触れご家族様にお伝えしています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めています</p>	<p>虐待の事例等を回覧、掲示して研修及び職員ミーティングで常時話し合い、周知徹底しています</p>		

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っています</p>	<p>契約時、契約解除時共に、納得できるように十分に説明を行い、不安を取り除く拝領をしています</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させています</p>	<p>利用者への傾聴を大切にし、自身の思いや意見を上手に表現ができない方には言動から探り出し、また、利用者の訴えをそのままにすることなくミーティング等で具体的に話し合い、職員間で共有し反映しています</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしています</p>	<p>毎月の一言通信で写真入のお知らせと来訪時、必ず声かけし近況状況を行っています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させています</p>	<p>行事等の後に家族会を設け、ご家族同士の顔馴染みができ、意見交換の出し易い雰囲気作りを行っています。玄関に、設置している意見箱や本社へのメール等で意見を言える場を提供しています</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させています</p>	<p>ホーム会議、各種委員会会議、引継ぎ等で意見交換を行い、申し送り等で伝達し質の向上に努めている</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めています</p>	<p>常に利用者が支援を受けられる様に、柔軟なローテーションができるように職員と話し合いシフト調整を行っています。開所以来の勤続者から2年以上の勤続者が多く、利用者にとって馴染みのある関係となっています</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしています</p>	<p>馴染みの職員が継続的に支える体制で、統一した援助ができるように引継ぎ時間を十分に取し、スムーズに移行ができています</p>	

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めています	正社員、パート社員の区別無く全職員が意識以って共有できるように、入居者一人ひとりの対応に応じた研修を随時、ミーティング、申し送りノート、実践、個人面談を以って行っています		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしています	横浜市グループホーム連絡会に加入し情報収集を行っています。又、社内のグループホーム長会議、安全委員会、ケアプラン委員会において、情報を共有し、質の向上に取り組んでいます		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいます	職員間の懇親会を設けています。又、日々、職員間同士が声かけあいながら休憩を取ったり、管理者は、職員の話をよく聞くように勤めています		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めています	やりがいを持って頂く為に、職員の特技を生かしレクリエーション等に反映し成果を認め、勤務条件に沿うよう出来る限り努力しています		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていますこと等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしています	見学、事実調査を通し、ご利用者の状況を把握し一つひとつ丁寧に笑顔で声かけし、不安の無いように心がけています。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていますこと、不安なこと、求めていますこと等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしています	見学、事実調査を通し、ご家族の状況を把握し一つひとつ丁寧に答え、不安の無いように心がけて信頼関係を築いています		

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としています支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています	入居担当者との連携、相談にて速やかに対策を考えて報告をしています		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫しています	一日も早く慣れて頂くようにご家族と相談し、普段使い慣れた物など持ち込んで頂き、今後グループホームで生活して行く事を認識して頂けるように、笑顔で接し会話対応を大切にしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いています	食事を共にしたり、お茶を一緒に飲んで利用者の生活に職員も入れるようにしています。利用者が何を求めているのかを言動などあらゆる面から探り傾聴、共感し、安心ができるようにスキンシップをとりながら、得意分野で力を発揮して頂けるようにしています		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いています	面会時、電話などでご家族と連絡を取り合い、情報交換を密に行っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援しています	面会時はご本人の状況をお話し、自室にてお茶を飲みながら会談していただいています。行事のお知らせ、参加を募っています。又、疎遠になっていきます家族には、電話連絡、一言通信で毎月行事予定を記載し、いつでも来訪出来る様に呼びかけています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めています	ご家族、ご本人から情報収集して知人、友人が訪ねて来られる様な環境作りを行っています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めています	利用者間の関係を把握し、配席の工夫、適時職員が間に入るなどホーム全体での利用者の交流を図り、個性を生かした役割をもっていただいています		

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしています	住所地遠く該当無いです。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。困難な場合は、本人本位に検討しています	居室担当者を中心に定期的なカンファレンスや会議を通し利用者の言葉、行動などから汲み取り意向を聞き記録に残して、利用者の生活歴、ご家族からの情報を共有しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めています	入居前にご自宅を訪ね、本人の生活歴やご家族からの情報の把握して共有しています		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めています	バイタルチェック、食事量、排泄チェックの健康管理は毎日。一日の時間とそのときの様子を生活記録に落とし、一人ひとりの生活の把握を行っている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成しています	利用者主体の暮らしができるようにアセスメント、モニタリング、カンファレンスを開催し、職員間の意見を反映し具体的な介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成しています	3ヶ月及び6ヶ月ごとにモニタリングとカンファレンスを行い見直しチェックをしている		



項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています	生活記録や個人の申し送りノートに変化のあった時など詳しく記録し、職員間で情報を共有している。又、協力機関、ご家族からの情報をケアプランに反映させ実践している		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしています	月2回の訪問診療、週1回の歯科衛生士の口腔ケア、歯科医月2回、月2回の訪問看護師、月2回のシニアセラピー、24時間体制の医療との連携を行っている		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援しています	消防署と連携し避難訓練を行ったり、ボランティアによる、合唱、尺八合奏、フラダンス、大正琴など楽しんでいたり、小学校で行われる行事に参加しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしています	本人の意向や必要性に応じて他事業者やご家族も含め相談し利用者本位の支援が出来る様に努めている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働しています	運営推進会議時に地域包括支援センターの方から助言を頂いています		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援しています	訪問診療医による定期的な馴染みのドクターの受診となり医療連携を保っている。通院介助においてご家族と連携をとり情報を共有している		

みんなの家横浜三保(なごやか 2F)

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援しています</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしています</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めています。あるいは、そうした場合に備えて連携しています</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有しています</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいます。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っています</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めています</p>		

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人のプライドを傷つけないように呼び名に気をつけ、利用者の近くで言葉をかけるなど個人の気持ちを大切にしています。居室入り口ののれん、排泄時など戸を閉めるなどプライバシーに配慮しています。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしています</p>	<p>レクリエーションへの参加、訪問パン屋での買い物など希望を確認している</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援しています</p>	<p>利用者の健康状態や希望に合わせて、入浴、散歩の有無を聞き、「何かすること無いかな」と話して来られたり、昔話など聞いて、夜間眠れない方と一緒にテレビを見るなど個別に対応し、利用者の気持ちを大切にゆったりとした自由に制限なく、職員も一緒に見守りながら生活しています</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めています</p>	<p>「髪が伸びただけで散髪屋さんを呼んでもらえるかな」速やかに訪問理容にて好みのカット、朝の整容時に洗顔の声かけとご自分でできない方はタオルで拭いたり、髭剃りもご自分で剃った後の剃り残しがあった時は職員が剃ったり、着衣の交換もできる限りご自分で選択するようにしている</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしています</p>	<p>職員が一方的に行わず、お味噌汁作り、盛り付け、食器の後片づけおやつ準備を利用者と共に行い一緒に召し上がっている また、外食したり食の楽しみを共有している</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援しています</p>	<p>月2回の手作りおやつには何が食べたいかを聞いて、準備から出来上がりまで楽しんで行っています。また、入浴後などに好きなお酒をノンアルコールではありますが飲んで頂いたり、好きな時間に好きな食べ物を召し上がり、自動販売機で飲みたくなったら好きなものを選んで購入しています。外食時にも好きなものを選んでいただいています</p>	

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援しています	排泄毎に記録し、一人ひとりのパターンを把握して早めに耳元で声かけ、誘導を行い自力でのトイレ排泄の支援を行っている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援しています	一人平均2日おき位で、入りたくないときは無理強いをしない様に声をかけて入浴しています。また、季節に合わせたゆず湯、菖蒲湯を用意し入浴に対し楽しみが持てるように工夫しています。入浴のタイミングは可能な限り希望に添えるようシフトを工夫している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援しています	一人ひとりの生活習慣に合わせて、日中の休息は自由に取っていただき、夜間は眠れるように室温、照明、音など環境を整えています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしています	一人ひとりにあった役割を持って生きがい、楽しみを持って頂けるように、食に関する職人の方には、盛り付け、かたづけ、おやつ作りの手順時から出来上がりまで楽しんで行っただけです。又、洗濯物を干す、たたむ、ガーデニング、花の水遣り、色塗り、書道、生花などの趣味を生かした環境を提供しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援しています	個々の能力に合わせてご家族とも相談し、お金は自己管理で所持しており買い物に出かけた折には、所持金から払って金銭管理している。また、所持が不可能な方でも、訪問パン屋さんに来られた折には、お金を持って頂いて支払う、つり銭を頂くなどの支援をしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援しています	希望を募って散歩、草木を見る、戸外でお茶を飲んだり、屋外の掃除を歩行困難な方も一緒に行っている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援しています	どの様な所へ行ってみたいか利用者に聞いて、ご家族に募り、バスツアーを計画しご家族様も一緒に出かけている		

みんなの家横浜三保(なごやか 2F)

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしています	年賀状を書いたり、ご本人宛に届いた物はお渡しし、お手紙のお礼状を書いて出したり、電話がかかってきたときは取り次いで、かけたいときにはかけていただいています		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫しています	ゆっくり過ごせるように、ご本人の希望するお部屋、フロアへご案内いしてお茶をお出し、時には近況を話したり写真を見て頂いたりしています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます	「身体拘束の無いケア」を掲示し、職員全体に拘束に対する理解を高めるため、会議で話し合う機会を作りケアに当たるように努めている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいます	防犯上、安全策理上の理由で施錠している扉もあるが、可能な限り鍵をかけず入居者の生活空間を広げている。施錠している扉も本人の訴えにより開錠している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮しています	職員一人は常時フロアで見守りができることを基本にしており、その場を離れる時には必ず声のかけあいをするように努め、夜間は巡視をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしています	生活習慣上必要な物品は可能な限り自己管理していただいている注意が必要な方の習性の把握、一緒に行動し助言することでの危険回避、定期的な収納庫のチェックをしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいます	会議、申し送り、ヒヤリハット、事故報告書などの情報を職員間で共有し事故防止に努めている。書類物は綴じていつでも見れるようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っています	事務所内の貼り紙や急変事故発生マニュアルにて周知徹底し急変時に備えて医療機関からの対応策の助言等を職員間で共有し、救急法の研修を行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけています	防災訓練を年2回、入居者を交えて実施しています。また、厨房以外の室内は火気厳禁とし、定時の見守り確認を徹底し自主点検表で防火管理を行っている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っています	入居者の身体状況の変化に応じてご家族様に面会時、電話連絡するほか、「一言通信」を毎月発行し日常状況を報告しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けています	毎日2回のバイタルチェックや定期往診にて健康管理し、体調の変化が見られたときは、往診医に連絡し職員間で共有し、必要に応じてご家族へも連絡しています		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用しています薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています	薬の内容が変更になる都度、申し送りノートに変更内容を記載し、周知徹底を図っています。薬の作用・副作用については薬剤師に指導を受けています。社内で研修を受けた際は職員間で情報を共有している。必要に応じて往診医と連携をとり、ご家族へ伝えている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいます	水分補給や、健康飲料(牛乳、豆乳、ヨーグルト、乳酸菌飲料)などの摂取、腹部マッサージや適度な運動を心がけています。必要に応じて主治医と相談の上、下剤を服用していただくこともしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしています	歯科医院による口腔管理が定期的に行っています。このほか、毎食後に歯磨きを呼びかけ、介護が必要な方に対しては職員による介助を行っています。		

みんなの家横浜三保(なごやか 2F)

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしています	食事量・水分量についてはバイタル・服薬チェック表に欄を設け、日常の喫食状態を把握すると共に、食事を共にすることで食事の形状がその入居者に合っているか確認し対応しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行しています(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがい、食事前の手指の消毒、冬場の室内乾燥防止の為に加湿、必要に応じてマスク、手袋の着用を敢行し、感染予防に努めています。さまざまな感染症については、その内容を申し送りノートへの記載や、職員会議での議事として職員への周知徹底に努め、流行の感染症は研修を行い予防の知識を深めている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めています	中国産原材料については納入業者より使用する原材料ごとにその規格証明書の提供を義務付けるなど使用する食材の安全性確保に万全を期している。衛生管理マニュアルを作成している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしています	玄関が奥まっていますので、道路に面した壁面に「みんなの家・横浜三保」のプレートや手作りの餌台、花壇などを設け、明るい雰囲気になるよう心がけています		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしています	のれん、レースのハーフ丈のカーテンなどによる家庭的な雰囲気作り。利用者の作品、四季折々の草花の飾りつけや行事の手作り写真集を壁に設置するなどして、暖かな空間を演出しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています	エレベーター前ホールの椅子やテーブル、テレビ前の藤の椅子やソファの位置の工夫、キッチンにテーブルと椅子を設け、くつろげる環境作りを提供している		

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています	クローゼット、たんす、ベッドは備え付けられていますが、仏壇、たんす、テレビ、鏡台、テーブル、椅子など馴染みのある物を自由に持ち込んでいただいて居心地のいい部屋としています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っています	入居者に四季折々を感じていただくため、日に一度居室の窓を開けています。それ以外は、動きの少ない入居者に合わせた気温調節を心がけています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫しています	トイレ・浴室等は必要なところに手すりを配置、居間・食堂はテーブルの間隔を広く取り、車椅子やシルバーカーでの移動に支障が無いよう事故防止に努めています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫しています	モニタリングやカンファレンス、生活記録を通して、一人ひとりの力を活かせる努力を職員間で探して自立に繋げている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしています	施設の脇を通る小道を有効活用し、毎日散歩を実施しています。 花壇の草花や小鳥の餌台、野菜の栽培、天気の良い日はテーブルを出して外気浴をかねたティータイムなど楽しんでいます。		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念「笑顔」を改めご利用者からの声より「笑顔で仲良く暮らそうみんなの家」となりました。ホーム周辺は緑が多く四季の移り変わり、ご近所の方との会話を楽しみに毎日散歩へ出かけ顔馴染みとなって「こんにちは～」「おばあちゃんいつも元気ね」「何を作っているのですか」などと声をかけたり、かけられたり、今では自然に地域に溶け込んでいます。地域行事に出かけること多く、外出先から帰ってくると「ただいま～」とホッと安心され、やっぱり「ここが一番」とご利用者からの声。職員共々に明るく、元気よく笑いの絶えない生き生きとしたホームです。毎月の行事多く、その中でも重きを置いている「敬老会の日の集い」「元旦の日の集い」です。これらの行事で使用する紅白幕リニューアルし約400枚を利用者の手で半年かけてひと針ひと針縫っていただきました。今ではホームの宝物です。 玄関、フロアの飾りつけは四季折々に合わせ、折り紙、色塗り、貼り絵、写真、居室入り口飾りなどで雰囲気作り。自分らしさを強調するためのれんを下げて見ました。手作りおやつでは準備から一人一人が役割を持って最後まで行われ充実感を感じていただいています。玄関前、玄関ホール、2階エレベーターホールにはテーブル、いす、観葉植物を設置し空間作りを行い、自由に利用ができるように工夫しています。利用者にそれぞれ役割を持っていただき掃除、片付け、洗濯物干し&たたみ、ヤクルト配達、花の水遣り、野鳥の餌やりなど生きがいを持って生活していただいています。近くに買い物する所もないため、移動パン屋さんに来ていただいたり、自動販売機を設置しました。